



グルモハル

JAPANESE SCHOOL
OF MUMBAI

TEL 022-6694-0630

17 OCT/2025 NO 6

『生きた教科書』から学ぶ、ムンバイ日本人楽幸！

校長 佐藤 義朗

ムンバイ日本人学校は、SDG s を中核とした教育活動の中でキャリア学習を取り入れ、全校児童生徒と保護者で様々な方からお話をうかがう機会を設け、修学旅行で日本企業の訪問を行ったり、毎年「ANA（全日空）ムンバイ」様を講師に招いての航空教室、マナー講習会、航空会社の仕事についての学習を行ったりしています。また、「MUFG」様、「くふ楽」様、「ニトリ」様を訪問し、職場体験を行ったりして実社会を学び、自分自身の将来と向き合う学習を進めながら将来世界で活躍する持続可能な社会を創造する担い手を育成しています。

また1学期には、世界各国の屋台を食べ歩く You Tuber 坪和寛久様をお招きし、「ポジティブに考えて伝えること」の大切さを教えていただきました。中学部は、日本人学校に在籍した経験のある上智大学の池田教授から、異文化の見方を教えていただきました。講話の中での「見えている物は氷山の一角に過ぎず、その下の部分には歴史や宗教、思考法などたくさんの様々な背景があることを知ることが大切である」という言葉が印象に残りました。

最近では、海上自衛隊護衛艦「あけぼの」の自衛官によるレクチャーや艦内見学から、世界の中の日本について学ぶことができました。

5・6年生は、Kalpavruksha school の5・6年生を学校に招待し、お互いの学校やそれぞれの国の文化の紹介をして交流を深めました。また、ムンバイのムクタンガン（パブリックスクール）を訪問し、学校の授業を見学したり、スポーツで一緒に汗を流したりしました。同じ日に、世界最大規模のスラム街であるダラビ地区を訪れ、年間数十億ドルに達するともいわれている地区内のリサイクルを中心とした経済活動の様子を間近で見学し、決して恵まれた環境ではない人々の活力ある営みを感じてきました。3・4年生は、インドのごみ問題に目を向け、ポワイ地区で実際にゴミ拾い調査を行い、拾ってきたゴミの分別、種類ごとの重さを量り、その量の重さを実感しました。その後の調べ学習では、1日の一人当たりのゴミの量は、インドよりも日本の方が多いことを発見し、驚いていました。

1・2年生は、IIT マーケット、NIRVANA Park、警察署等、ポワイ地区を探検し、インドの生活について学びを深めています。さらに1年から4年生は、毎年キッザニアを訪問し、職業についての体験学習を行っています。

私たちが生活するインドは、まさに『生きた教科書』です。一昨年度から本校では、子どもたちが、学ぶことに喜びや幸せを感じ、学ぶことを楽しみながら日々成長していくことを願い、「ムンバイ日本人楽幸」を合言葉に教育課程を編成しています。「生きた教科書」から五感を通じて学んでいる子どもたちは、10月31日に行われる学習発表会でどんなことを学び感じ考えたか発表します。今後も、子どもたちの活躍にご期待ください。



みんなのデンタルケア！ 2025



10月1日(水)、シンガポールラッフルズジャパニーズクリニックの歯科医師、伊藤明雄先生にお越しいただき、歯科授業を行いました。先生は「爽やかなナイスガイ」という言葉がピッタリ。次々に出てくる児童のいろいろな発言にも優しく対応してくださいました。

先生は虫歯予防のお話だけではなく、歯に関するいろいろな豆知識も紹介してくださいました。

肉食動物、草食動物の歯と人の歯の違いの話や歯科治療の歴史にも話題は及び、初めて知ったことに児童生徒たちもビックリ。狩猟採集をしていた250万年間はほとんど虫歯がなく、1万年前の農業革命で虫歯が少しずつ出てきて、1850年頃の産業革命で大流行したそうです。昔は治療と言っても抜歯。治療技術の発達した今の時代に生まれたことに思わず感謝せずにはいられませんでした。また、砂糖が虫歯の原因にはなりやすいものですが、その砂糖は2400年前のインドから世界に伝わったそうです。

歯科授業の後には歯科検診も行ってくださいましたが、「みなさん歯がきれいですね。」とお褒めの言葉をいただきました。常に口の中に食べ物が入っている状態になる、通称「ダラダラ食べ」が一番虫歯になりやすいそうです。間食をあまり多くとらないように気をつけ、歯磨きをしっかりとって健康な歯を保ち続けましょう。

後期児童生徒会 始動！

10月6日(月)、後期役員の認証式があり、それを受けて後期児童生徒会総会が行われました。前期生徒会会長からは、「目安箱を設置し、みんなの意見を取り上げたことや、今月の目標を決め、どんなことに重点をおいて取り組んでいけばよいか皆に意識してもらった。」という話がありました。

また、校長先生からは「役についたことが大事なのではなく、役についた後に何を行っていくのが大事だ。」という激励の言葉をいただきました。

後期児童生徒会のメンバーもバトンをしっかり引き継ぎ、より良い楽幸(学校)を作っていってほしいと思います。学校は生徒会のメンバーだけでより良くしていくものではありません。リーダーシップとフォロワーシップの両方が必要です。みんなで協力していきましょう。

【後期児童生徒会会長より】

・みんなが安心して楽しい学校生活を送れるように児童生徒会のみんなで力を合わせて頑張ります。責任をもって仕事をするので半年間よろしくお願いします。

